



2024 年度 環境報告書

環境理念

私達は、地球環境保全が 21 世紀における人類の最も重要な課題の一つであることを認識し、地球環境保全と将来の世代の夢が守られる持続可能な社会の義務に向け、積極的に貢献を行っていきます。

2024 年度環境活動概要

私達は、国内における Scope 1 および Scope 2 の GHG(温室効果ガス)の年間排出量を把握し、グラフ化を行いました。2014 年度には事業拡大により上野事業所が加わったことで、排出量が最大値となりましたが、弊社では 2013 年(パリ協定の基準年)を排出量の基準年としています。2024 年度時点で、弊社は GHG 排出量を基準年比で 31% 削減しており、これはパリ協定(2016 年発効)で求められる 2030 年までの 26% 削減目標をすでに上回っています。今後は、2030 年度までに国内目標である 46% 削減の達成を目指します。また、循環経済(サーキュラーエコノミー)への対応として、廃棄物の削減・再利用・リサイクル(3R)を推進し、廃棄物の分別と削減を強化するとともに、有価物化を進めた結果、当該年度において主要事業所の排出物処理費用を前年比で 30% 以上削減しました。

2024 年度(52 期)環境報告書

1. 適用対象事業所の概要

当社は、国内の 4 つの事業所および蘇州惠普聯電子有限公司を環境管理の管理組織と位置づけ、各組織において、事業活動や製品・サービスの領域における環境マネジメントシステムの確立、運用管理、監視および改善活動を推進しています。これにより、継続的な環境パフォーマンスの向上を目指しています。また、当該年度には、外部審査機関である BSI グループジャパンによる ISO 統合(ISO 9001、ISO 14001)のサーベイランス審査が実施されました。本審査は年 1 回実施され、規定に基づく厳正な評価が行われます。その結果、当社は「法規制・その他要求事項チェックシート」などの評価基準をクリアし、ISO の継続認証を取得しました。

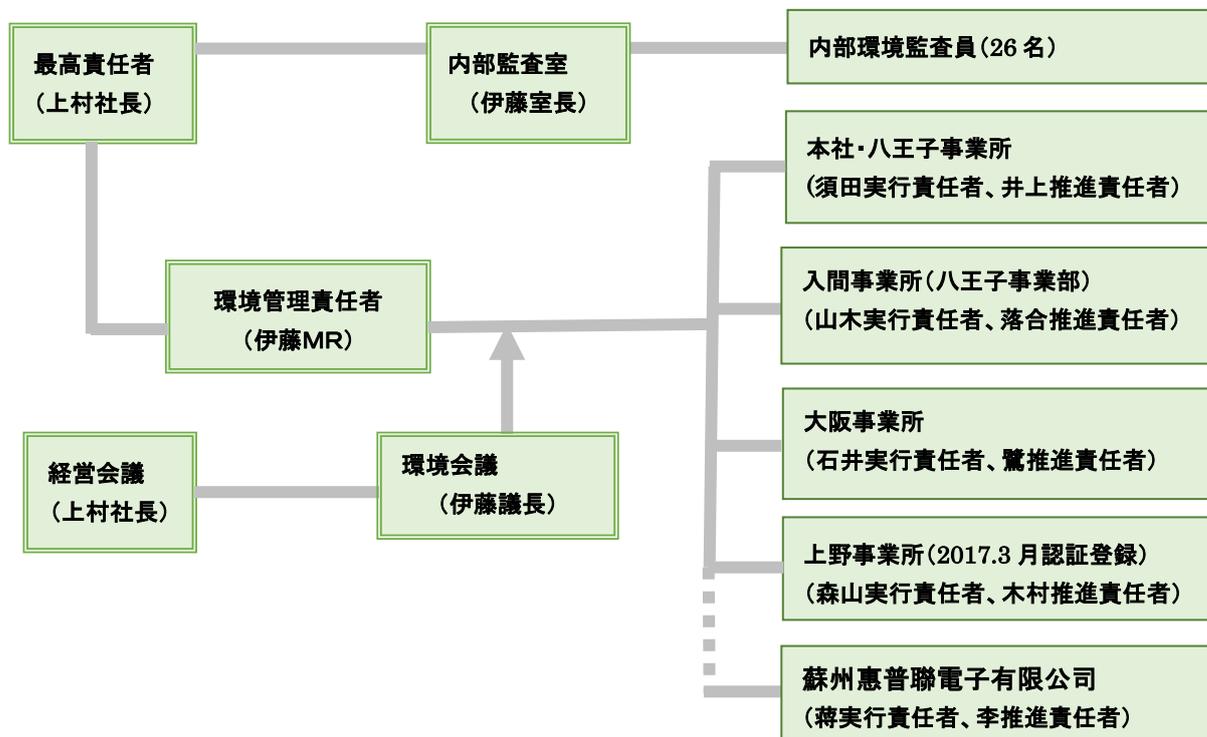
対象事業所

- 本社・八王子事業所(HHdiv)
- 入間事業所(IPlant)
- 大阪事業所(Odiv)
- 上野事業所(SSdiv)
- 蘇州惠普聯電子有限公司(SZE) [中国江蘇省]

2. 環境活動経緯

日時	環境活動と取り組み
2003.05 月	SONY GP(グリーンパートナー)認証取得(八王子事業所、CBS 統括事業部対象)
2004.06 月	ISO14001 登録証受領(国内 3 拠点)(登録番号 C2004-01417)
2005.02 月	中国・蘇州の ISO14001 拡大取得(登録番号 C2005-00331)
2005.12 月	年 1 回のサーベイランス審査を受審し EMS 維持活動を推進(社内認定登録者:7 名)
2006.02 月	2004 年規格へのアップグレード審査受審、認証登録完了(登録番号 C2006-01334)
2006.04 月	大阪事業所小松分室のサイト拡大審査合格
2008.06 月	グリーン調達ガイドライン(AO1003-OP)を制定し運用開始
2010.04 月	「エコキャップ活動」と「C25 キャンペーン活動」に賛同し具体的な活動を推進
2012.01 月	SONY GP(グリーンパートナー)再認証取得(八王子事業所、CBS 統括事業部対象)
2013.05 月	4 サイトの ISO 再認証審査を受審し認証登録の更新完了
2014.05 月	新たなビジネス領域として上野事業所(旧タンバック社)を傘下に収める PJR 認証機関から BSI Group Japan へ移転審査を受審し、移転認証登録完了
2015.04 月	事業効率化のため、株式会社タンバックを吸収合併し、システムソリューション事業部(上野事業所)とする上野事業所の事業所移転
2017.03 月	上野事業所のサイト追加拡大審査を受審し、認証登録が完了
2018.03 月	ISO14001 2015 年規格移行審査受審、全 5 サイトとも認証継続
2019.12 月	EMS 管理責任者を小保方から伊藤に交代
2022.05 月	社屋の LED 照明化実施(八王子事業所、入間事業所)
2023.10 月	ISO14001 と ISO9001 を統合審査へ移行、統合サーベイランス審査を受審し、全 5 サイト認証継続
2024.07 月	ISO 統合(9001, 14001)更新審査を受審し、全 5 サイト認証継続

3. 環境管理組織(2024年度)



4. 環境方針(2024年度)

環境方針

環境理念

私達は、地球環境保全が21世紀における人類の最も重要な課題の一つであることを認識し、地球環境保全と将来の世代の夢が守られる持続可能な社会の義務に向け、積極的に貢献を行ってまいります。

環境方針

1. 産業用コンピュータシステムに関する事業活動を通じ、省資源、省エネルギー、廃棄物の減量、有機溶剤消費の削減等を行い、環境負荷の軽減に努めます。
2. 環境配慮設計及びグリーン調達に取組み、有害物質の使用を避け、RoHS適合製品の提供を推進(鉛フリー等)し、有益な環境側面の創出に努めます。
3. 継続的な環境改善と汚染の予防に努めます。
4. 法規制、顧客要求・その他要求事項を順守し、環境保護へのコミットメントを推進します。
5. 環境目的、目標を設定、運用管理、監視・測定し、必要に応じて見直しを実施します。環境パフォーマンス向上のため、定期的なレビューを行い、環境マネジメントシステムの継続的改善活動を推進します。
6. この方針は文書化し、実行維持し、全従業員と当社のために働く人に周知徹底します。また、社外からの人々の要求に対して開示します。

制定 2024年04月01日

エブレン株式会社
代表取締役社長 **上村 正人**

5. 方針、目的目標および活動実績の概要

2024年度のISO 14001(EMS)活動では、2015年版規格への適合性の確保と、運用の定着化に注力しました。特に、「組織の状況」「リーダーシップ」「リスクおよび機会への対応」といった2015年版の重要要求事項への意識的な取り組みを継続し、環境パフォーマンスの向上に努めました。

推進活動の主なポイントとしては、従来通り、法規制およびその他の要求事項の遵守活動、環境配慮型製品の提供、有害物質の削減・排除によるRoHS指令への適合、快適な職場環境の改善、ならびに環境負荷の低減・資源の効率的活用・適切な維持管理の実施を挙げるすることができます。

また、当社は、持続可能な社会の実現に向け、事業活動全体において地球環境保全を重視した取り組みを推進します。政府が提唱する「COOL CHOICE(賢い選択)」および「デコ活(脱炭素につながる新しい豊かな暮らし)」の理念に賛同し、すべての従業員が日々の業務や生活において環境に配慮した行動を選択・実践することを基本姿勢とします。

八王子事業所および入間事業所では、全照明をLED照明に更新し、大幅な電力削減を達成しました。具体的には、八王子事業所で月平均4,100kWh、入間事業所で月平均900kWhの削減効果がありました。また、入間事業所では2023年度に旧型エアコンを高効率型へ更新し、月平均370kWhの電力削減を実現しています。

工場稼働率の上昇に伴い売上高も増加傾向にありますが、国内事業所の年間電力消費量は節電効果により前年度比でわずか0.4%の増加にとどまりました。一方、燃料調整費や再生可能エネルギー賦課金の単価上昇、さらに激変緩和措置の終了の影響を受け、年間の電気料金は前年度比1.1%増加しました。電力使用量は気候変動の影響を受けやすく、特に空調機器の稼働率に影響しますが、今後も継続的な電力使用量の削減に取り組みます。

加えて、本年度も滞留資産の分析と削減活動を実施しました。産業廃棄物については、3R(Reduce・Reuse・Recycle)の観点から継続的な削減に努め、一部を有価物として売却することで良好な成果を得ています。今後も、重要な環境側面およびリスクを的確に把握し、環境マネジメントの向上と環境保全活動のさらなる推進に努めてまいります。

6. 2024年度の実績評価

① 改善推進テーマ

推進テーマ	組織体	目標値	実績値	達成率	判定
有益な工場環境の実現 (モデル工場)	HHdiv	6件の改善実行[5S維持管理]	12件改善完了	200%	○
	HHdiv	3件の改善実行[安全環境配慮製造ライン]	9件改善完了	300%	○
	HHdiv	24件の改善実行[変種変量製造ライン]	34件改善完了	142%	○
	IPlant	6件の改善実行[機能的安全快適な工場環境実現]	8件改善完了	133%	○
	Odiv	24件の改善実行[社内資産活用し効率的な作業環境実現]	28件改善完了	117%	○
	Odiv	12件の改善実行[3T実施と継続]	12件改善完了	100%	○
	Odiv	12件の改善実行[5S実施と継続]	12件改善完了	100%	○
SZE	部品12件以上環境負荷物質の含有物調査]	12件完了	100%	○	
不良資産の発生抑制	SSdiv	6件の改善実行[資材調達方式改善]	6件改善完了	100%	○
仕損じ撲滅活動	HHdiv	1,020,000円以下	624,645円	61%	○
	IPlant	324,000円以下	108,546円	34%	○
	Odiv	624,000円以下	409,557円	66%	○
	SSdiv	336,000円以下	188,222円	56%	○
	SZE	24,000円以下	1,478円	6%	○

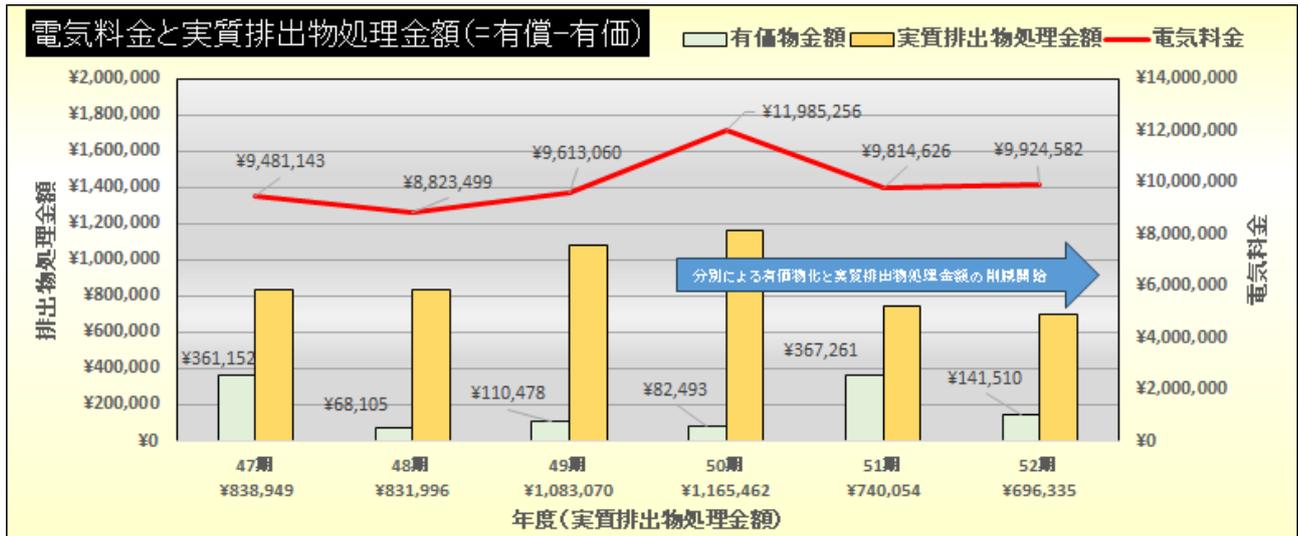
② 継続監視テーマ

推進テーマ	管理組織体	監視基準値 (125%)	前年実績値	実績値	前年対比	判定
資源枯渇抑制 (電力使用量)	HHdiv	173,571kWh 以下	138,857kWh	129,382kWh	93%	○
	IPlant	71,459kWh 以下	57,167kWh	65,381kWh	114%	△
	Odiv	138,040kWh 以下	110,432kWh	112,419kWh	102%	△
	SSdiv	43,280kWh 以下	34,624kWh	35,197kWh	102%	△
	SZE	12,433kWh 以下	9,946kWh	9,039kWh	91%	○
非 RoHS 対応製品の供給(鉛フリー化推進)	Hdiv + IPlant	8.81kg 以下	7.05kg	4.07kg	58%	○
	Odiv	1.25kg 以下	1.00kg	1.00kg	100%	○
資源枯渇抑制 (ガソリン)	HHdiv	14.5km/l	18.2km/l	16.7km/l	92%	△
	IPlant	5.3km/l	6.7km/l	8.7km/l	130%	○
	Odiv	14.2km/l	17.8km/l	17.4km/l	98%	△
	Odiv	8.3km/l	10.4km/l	9.4km/l	90%	△
資源枯渇抑制 (用紙)	HHdiv	259,375 枚以下	207,500 枚	247,000 枚	119%	△
	Odiv	144,844 枚以下	115,875 枚	98,000 枚	85%	○
	SSdiv	15,000 枚以下	12,000 枚	12,500 枚	104%	△
	SZE	28,125 枚以下	22,500 枚	22,000 枚	98%	○
資源枯渇抑制 (水道)	HHdiv	445 m ³ 以下	356 m ³	339 m ³	95%	○
	IPlant	156 m ³ 以下	125 m ³	127 m ³	102%	△
	Odiv	338 m ³ 以下	270 m ³	287 m ³	106%	△
	SSdiv	151 m ³ 以下	121 m ³	126 m ³	104%	△
	SZE	202 m ³ 以下	162 m ³	0 m ³	0%	○
産業廃棄物	HHdiv(燃焼ゴミ)	450kg 以下	360kg	360kg	100%	○
	IPlant(燃焼ゴミ)	288kg 以下	230kg	90kg	39%	○
	Odiv(燃焼ゴミ)	300kg 以下	240kg	0kg	0%	○
	SSdiv(燃焼ゴミ)	196kg 以下	157kg	190kg	121%	△
	SZE(燃焼ゴミ)	0kg 以下	0kg	0kg	#DIV/0!	○
資源枯渇抑制 一般廃棄物 (排出物、有価物)	HHdiv (有償排出)	4,444kg 以下	3,555kg	3,083kg	87%	○
	IPlant (有償排出)	1,281kg 以下	1,025kg	1,427kg	139%	×
	Odiv (有償排出)	4,800kg 以下	3,840kg	2,620kg	68%	○
	SSdiv (有償排出)	0kg 以下	0kg	0kg	#DIV/0!	○
	SZE(有償排出)	15kg 以下	12kg	6kg	50%	○
	HHdiv(有価)	-	3,643kg	1,631kg	45%	-
	IPlant(有価)	-	583kg	2,797kg	480%	-
	Odiv(有価)	-	4,780kg	5,060kg	106%	-
	SSdiv(有価)	-	0kg	0kg	#DIV/0!	-
	SZE(有価)	-	886kg	752kg	85%	-

【注1】基準値判定 :○ ~100% △ ~124% × 125%~

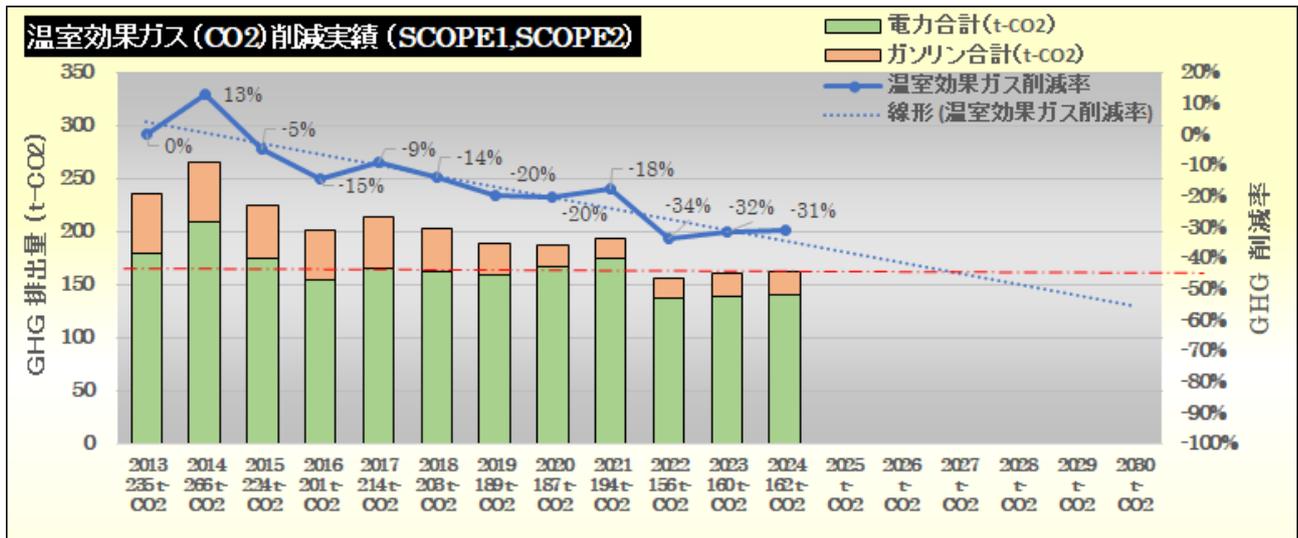
【注2】燃費:基準値判定:○ 100%~ △ 81%~ × ~80%

③ 電気料金と実質排出物処理金額



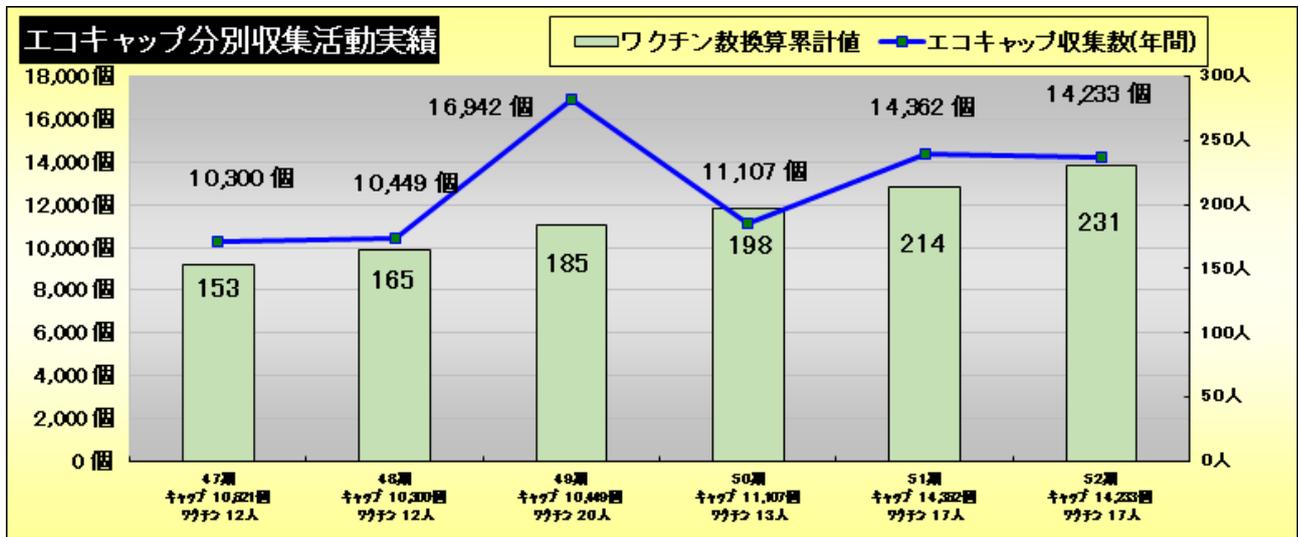
* 47期は暫定

④ 温室効果ガス(CO₂)削減実績 (電力とガソリンの削減実績)



* 東京電力の CO₂ 排出係数(kg-CO₂/kWh)(調整後)を使用(2024年度は暫定)

⑤ エコキャップ分別収集活動実績(37期(2009年)以降の累積)



7. ISO14001:外部審査と内部監査の結果(ISO9001 との統合)

- ① 外部審査:52期 ISO 統合サーベイランス審査
国内、蘇州 2024/07/統合審査
結果:改善の機会=18件、Good Point=3件:

- ② 52期 ISO 統合内部監査 :2024. 10月～25. 1月

部門	MKT 八王子	Hdiv	IPlant	MKT 大阪	Odiv	SZE (リモート)	SSdiv	ADM	CP	IAO
監査日	2024/1 0	2024/1 0	2024/10	2024/11	2024/11	2024/11	2025/1	2025/1	2025/1	2025/1
不適合(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要観察(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
改善機会(件)	0	1	1	0	2	0	1	2	1	0
G・P(件)	1	4	1	1	2	0	2	1	1	1

- ③ 52期 SONY-GP 内部監査

	SONY-GP
監査日	2025/2
不適合(件)	0
要観察(件)	0
改善機会(件)	2
G・P(件)	1

8. 2025年度の主な取り組み事項

- 2025年度の環境マネジメントシステム(EMS)および環境活動では、「管理業務の集中と選択」をキーワードに、業務の効率化と重点的な施策の推進を図ります。
- 環境省が提唱する「COOL CHOICE」や、脱炭素社会を目指すライフスタイル転換運動「デコ活」を積極的に推進します。
(※「デコ活」とは、CO₂を減らす“Decarbonization(脱炭素)”と“Eco(環境に良い行動)”を組み合わせた造語で、環境に配慮した活動・生活の総称です。)
- 本社八王子地区における「モデル工場化」活動を継続し、具体的な目標・施策・成果指標を明確に設定した上で、その成果を他事業所へ水平展開し、全社的な環境パフォーマンスの向上を目指します。
- 資源の枯渇リスクを意識し、滞留資産の発生抑制および生産資材の不要廃棄を防止するための監視・改善活動を推進します。
- 環境管理に要するコストの最適化に向けて、環境管理費用の実態調査、情報収集、および継続的なコスト低減施策を展開します。
- 循環経済(サーキュラーエコノミー)への移行に向けて、社内からの排出物の削減・再利用・リサイクル(3R)を推進します。具体的には、梱包材の再利用、廃棄物の分別強化、有価物化を通じて、排出物処理コストの削減を継続的に図ります。

以上